



**JPN Class**

Online school - 日本語で学ぼう

# 国語の学習

## 小学校

## 六年生

## 十一月 第②週



# 学習を始める前に

## ①必ず用意してください

### ・ノート

(学習しやすいように、漢字のノートと国語のノートを分けるなど工夫をすること。)

### ・筆記用具 (赤ペンも用意すること。)

## ②注意

・大事だと思うところはノートに書いてください。

・このビデオで使っているスライドを印刷したい人は、最後の**お知らせ**を見てください。

・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示に従ってください。



・必要があるときは、ビデオを止めたり、もう一度ビデオを見たりするなど、それぞれ工夫をください。

## 先週の宿題から

次回の授業までにやる勉強です。

### 1. 漢字

今日の授業で書いた漢字の練習をしましょう。

### 2. 音読 「イートハーヴの夢」を読みましょう。

### 3. 宮澤賢治の生涯を年表にまとめましょう。

年 (賢治の年れい)	出来事
一八九六年  (小学校六年生のころ) 〈中学入学〉 〈高校入学〉 〈二十五さい〉 〈三十さい〉 〈三十五さい〉 一九三三年	<ul style="list-style-type: none"><li>・岩手県の花巻に生まれる。</li><li>〔三陸大津波、大雨による洪水、陸羽大地震、伝染病の流行と、次々に災害におそわれた。〕</li><li>・石集めが好きで、「石こ賢さん」とよばれていた。</li><li>・自然災害のために、農作物がとれなかった。</li><li>・農業技術を学ぼうと、盛岡高等農林学校に入学。</li><li>・農学校の先生になる。</li><li>・童話集「注文の多い料理店」詩集「春と修羅」出版。</li><li>・農学校をやめ、「羅須地人協会」を作る。</li><li>・石灰肥料会社の共同経営者になる。</li><li>・旅先で発熱</li><li>・三十七さいで死去。</li></ul>

## 漢字テスト①

読み方を漢字ノートに書きましよう。

優秀

曲尺

寸法

暖かい

指揮者

忘れる

批評

若者

長男

後に

自ら

青年



## 漢字テスト①

読み方を書きましよう。

《 答え合せをしましよう。 》

優秀

ゆうしゆう

曲尺

かねじゃく

寸法

すんぽう

暖かい

あたたかい

指揮者

しきしや

忘れる

わすれる

批評

ひひよう

若者

わかもの

長男

ちようなん

後に

のちに

自ら

みずから

青年

せいねん

## 漢字テスト②

漢字を書きましよう。

ゆうしゅう

かねじゃく

すんぽう

あたたかい

しきしや

わすれる

ひひよう

わかもの

ちようなん

のちに

みずから

せいねん



## 漢字テスト②

漢字を書きましよう。

《 答え合せをしましよう。 》

ゆうしゆう

優秀

かねじやく

曲尺

すんぽう

寸法

あたたかい

暖かい

しきしや

指揮者

わすれる

忘れる

ひひよう

批評

わかもの

若者

ちようなん

長男

のちに

後に

みずから

自ら

せいねん

青年

# イーフトハーヴの夢

畑山 博

宮澤賢治は、一八九六年（明治二十九年）八月二十七日、岩手県の花巻はなまきにうまれた。津波や洪水、地震しんと、次々に災害にみまわれた年だった。六月、三陸大津波さんりく。七月、大雨による洪水。八月、陸羽大地震りくう。そして九月には、またまた大雨、洪水。それによる伝染病せんの流行。次々におそった災害のために、岩手県内だけでも五万人以上がなくなるという大変な年だった。



イーフトハーヴは賢治の心の中にある理想郷だ。賢治が生まれた岩手の風土がそのモチーフになっている

家の職業は質店しち。裕福な暮らしだった。賢治はその長男。後に四人の兄弟が生まれる。

小学校六年生のころの賢治は、身長が百三十三・九センチメートル。体重二十九キログラム。丸顔で色白。性格はおとなしく、一人遊びが好きだった。その一人遊びは、石集め。石を観察することが大好きで、よく近くの野山に出かけては集めてきた。そのため、みんなが「石こ賢さん」とよんだ。

賢治が中学に入学した年も、自然災害のために農作物がとれず、農民たちは大変な苦しみを味わった。その次の年も、また洪水。

「なんとかして農作物の被害を少なくし、人々が安心して田畑を耕せるようにはできないものか。」

賢治は必死で考えた。

「そのために一生をささげたい。それにはまず、最新の農業技術を学ぶことだ。」



1902年の小正月、5歳の賢治（右）と3歳のトシ（左）

《読み方が新しい漢字》

長男ナシのち  
後に



そう思った賢治は、盛岡高等農林学校に入学する。成績は優秀しゅう。卒業のときに、教授から、研究室に残って学者の道に進まないかとさそわれる。でも賢治は、それを断る。そして、ちょうど花巻にできたばかりの農学校の先生になる。二十五さいの冬だった。

「いねの心が分かる人間になれ。」

それが生徒たちへの口ぐせだった。

また、こんな言葉を覚えていた教え子もいる。

「農学校の『農』という字を、じっと見つめてみてください。」

『農』の字の上半分の『曲』は、大工さんの使う曲尺かねのことです。

そして下の『辰』は、時という意味です。

年とか季節という意味もあります。」

曲尺かねというのは、直角に曲がったものさしのことだ。それを使うと、一度に二つの方向の寸法が測れる。だから賢治の言葉は、「その年の気候の特徴ちようを、いろいろな角度から見、しっかりとつかむことが大切です。」という意味になる。

また賢治は、春、生徒たちと田植えをしたとき、田んぼの真ん中に、ひまわりの種を一つぶ植えたこともあった。すると、真夏、辺り一面ただ平凡ほんな緑の中に、それが見事に花を開く。

「田んぼが、詩に書かれた田んぼのように、かがやいて見えましたよ。」

と昔の教え子たちが言う。

苦しい農作業の中に、楽しさを見つける。工夫することに、喜びを見つける。そして、未来に希望を持つ。それが、先生としての賢治の理想だった。



《新しい漢字》

ユウ  
優秀  
ジヤク  
曲尺



盛岡高等農林学校と在学時の賢治



ひえぬき

賢治が先生になった群立稗貫農学校。賢治は農業だけでなく、英語や数学も教えた。



スン  
寸法

暴れる自然に勝つためには、みんなで力を合わせなければならぬ。力を合わせるには、たがいにやさしい心が通い合っていなければならない。そのやさしさを人々に育ててもらおうために、賢治は、たくさん詩や童話を書いた。「風の又三郎」またさぶろう「グスコーブドリ」の伝記「ゼロ弾ひきのゴーシュ」、そして「やまなし」。

賢治の書いた物語の舞台は、イトハーフという一つの同じ場所であることが多い。イトハーフというのは想像で作った地名だけれど、「イワテ」というのによく似ている。

「この岩手が、いつか、こんな夢のようなすてきな所になったらいいな。」

きつとそう思って、賢治はそんな名前をつけたのだろう。だから、イトハーフは、実際の岩手県と同じ大きさをしている。そうしてそこで、大昔から今までの、さまざまな出来事が起こるのだ。

「風の又三郎」は、山の小さな分校に、ある日、突然、一人の転校生がやってくる話。その少年、又三郎は、どうやら風や雨を自分の力で動かすことができるらしい。

「グスコーブドリ」の伝記」は、冷夏で農産物がとれなくなったため、人工的に火山を爆発ばくさせて、暖かくしようとする人々の話。でも、島の火山を爆発させに行く者は、生きて帰ってはこられない。それを、グスコーブドリが、自らすすんでやる。

「ゼロ弾きのゴーシュ」は、小さな町の小さなオーケストラのゼロ弾きの物語。ゴーシュは、弾き方が下手で、いつも指揮者にしかられていた。もうやめようかとくさっていた。でもそんなとき、ふとしたことから、自分の音楽で、野ねずみやうさぎ、たぬきなどの病気を治すことができるのを知る。

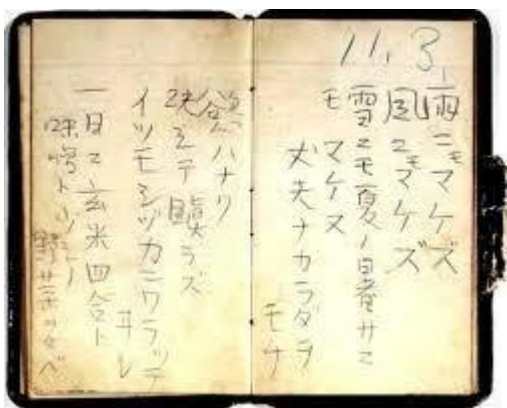
《新しい漢字》

《読み方が新しい漢字》

暖かい

自ら

指揮者



「北守將軍と三人兄弟の医者」という物語もある。  
おかの上に仲よく並んで、三つの病院が建っている。

人間の病気を治す病院。  
動物の病気を治す病院。  
植物の病気を治す病院。

三つの病院は、同じ大きさで、どれも同じように大切だということが書かれている。

そんな数々の物語の舞台を地図上にまとめてみると、楽しいイートハーヴのパノラマ地図が出来上がる。

豊かに農作物を実らせる川沿いの平野。

月の光を集めて作るカステラの製造工場。

青空を作る山。

鬼語で放送する放送局。

銀河のエネルギーを集めて発電する発電所。

グスコーブドリが爆発させた火山。

「やまなし」のかにたちがすんでいた、イサドの町の近くの小さな川。

そして、賢治の作品で忘れてはならない「銀河鉄道の夜」がある。

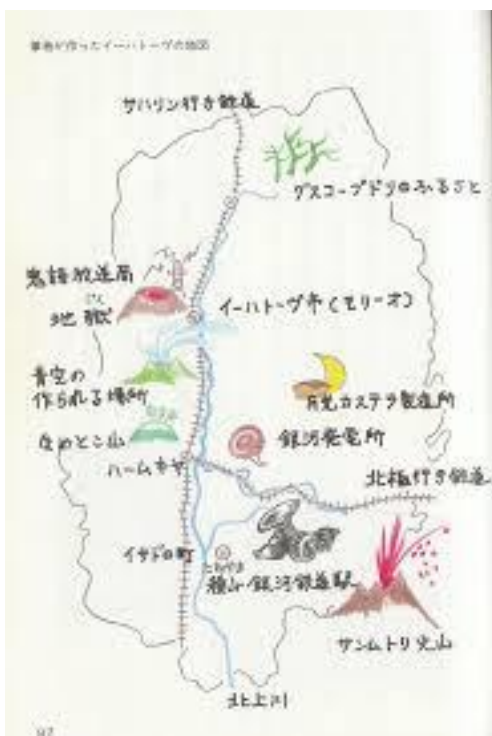
ある晩、事故でなくなった親友を送って、天上の国まで旅してしまう

少年の物語。目をみはるほど美しい天上の風景が出てくる。これは、大

切な妹トシをなくした賢治が、悲しみのどん底で書いた作品だ。物語の

主人公、ジョバンニが住ん

でいた町は、イートハーヴのパノラマ地図の中の種山付近と考えられる。



イートハーヴの地図 (筆者作)



「銀河鉄道の夜」の原稿

《新しい漢字》

わす  
忘れる

賢治がイートハーフの物語を通して追い求めた理想。それは、人間が人間らしい生き方ができる社会だ。それだけでなく、人間も動物も植物も、たがいに心が通い合うような世界が、賢治の夢だった。一本の木にも、身を切られるときの痛みとか、日なたぼつこのここちよさとか、いかりとか、思い出とか、そういうものがきつとあるにちがいない。賢治は、その木の心を自分のことのように思っ、物語を書いた。

けれども、時代は、賢治の理想とはちがう方向に進んでいた。さまざまな機械の自動化が始まり、鉄道や通信が発達した。なんでも早く、合理的にできることがよいと思われるような世の中になった。そんな世の中に、賢治の理想は受け入れられなかった。

初めのころ、賢治は、自分が書いた童話や詩の原稿をいくつかの出版社に持ちこんだ。でも、どの出版社でも断られた。しかたなく、賢治は、自分で二冊の本を出す。童話集「注文の多い料理店」、詩集「春と修羅<sup>しゅら</sup>」。でも、これもほとんど売れなかった。それどころか、ひどい批評の言葉が返ってくる。自分の作品が理解されないことに、賢治はきずついた。次に出すつもりで準備を整えていた詩集も、出すのをやめた。

農業に対する考え方にも、変化がおこっていた。「一度に大勢の生徒を相手に理想を語ってもだめだ。理想と現実の農業はちがう。実際に自分も農民になって、自分で耕しながら人と話さなければ。」

そう思った賢治は、三十さいのときに農学校をやめ、「羅須<sup>らす</sup>地人協会」を作る。農家の若者たちを集め、自分も耕しながら勉強する。それが賢治の目的だった。



伝言板。今でも賢治が畑にいるようです。



羅須地人協会に使われた建物



羅須地人協会の教室。賢治は農民のために芸術の話などをした。

### 《新しい漢字》

### 批評

### 若者

協会に集まった農村の青年は三十人ほど。そこで賢治は、農業技術を教え、土とあせの中から新しい芸術を生み出さなければならぬことを語った。農民の劇団を作ったり、みんなで歌やおどりを楽しんだ。

毎日、北上川沿いのあれ地を耕し、真つ黒に日焼けし、土のにおいをふんぷんさせる賢治。でもそれは、長くは続かなかつた。病氣のために、ねこんでしまったのだ。

羅須地人協会は、二年ほどで閉じなければならなくなつた。でも次の年、病氣が少しよくなると、起き出して村々を歩き回つた。

「あなたのこの田んぼは、こういう特徴があるから、今年は、こういう肥料をこのくらいやりなさい。」と、一人一人に教えてあげるボランティアだ。同時に、賢治は、石灰肥料会社の共同経営者になつて、セールスに歩き回る。石灰肥料会社は土地改良に役立つものだったので、それを広めることが農民のためになると考えたのだ。岩手県内だけでなく、東北一帯を、毎日毎日飛び回つた。

そのため、またまた体をこわしてしまふ。三五さい。ついに旅先で発熱。起き上がることができなくなつた。もうだめかもしれないと思つて、遺書を書くほどの衰弱ぶりだつた。どうにかやつと自分をはげまして、花巻に帰つたけれど、それっきりとこをはなれることができなくなつた。

そのまま二年間、賢治は病氣とたたかうが、体はますます弱つていった。そして、一九三三年（昭和八年）九月二十一日が来る。

前の晩、急性肺炎を起こした賢治は、呼吸ができないほど苦しんでいた。なのに、夜七時ごろ、来客があつた。見知らぬ人だつたけれど、「肥料のことを教えてもらいたいことがある。」と言う。すると賢治は、着物を着がえて出ていき、一時間以上も、ていねいに教えてあげた。

《読み方が新しい漢字》

青年

それで、最後の力を出し切ってしまったのかもしれない。翌日の朝、賢治は、激しく血をはいてしまう。心配した家族は、全員が家の二階の病室に集まった。それで安心したのか、賢治は少し落ち着いた。みんなはまた階下にもどっていった。母親のイチだけが残った。その母に、賢治は、

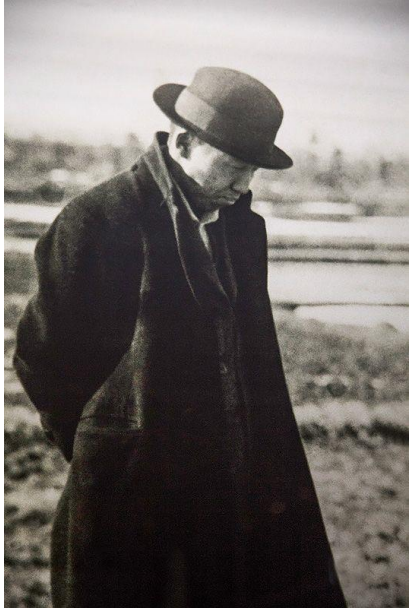
「お母さん、すまないけど、水を一ぱいください。」  
と言った。そして、母が差し出した水を、おいしそうに飲んだ。

それから、オキシドールを消毒綿に付けて、手をふき、首をふき、体全体をきれいにふいた。

「ああ、いい気持だ。ああ、いい気持だ。」

それが最後の言葉だった。

午後一時三十分、死のことになった部屋の片すみには、生きているうちには、ついに本になることになかった名作の数々、その原稿がうずたかく積まれ、静かに、秋の日ざしの中で、光っていた。



田の中に立つ花巻農学校教諭時代の賢治

## 賢治の考えや生き方について考えましょう。

賢治が中学に入学した年も、自然災害のために農作物がとれず、農民たちは大変な苦しみを味わった。その次の年も、また洪水。

①「なんとかして農作物の被害を少なくし、人々が安心して田畑を耕せるようにはできないものか。」

賢治は必死で考えた。

「そのために一生をささげたい。それにはまず、最新の農業技術を学ぶことだ。」

そう思った賢治は、盛岡高等農林学校に入学する。成績は優秀。卒業のときに、教授から、研究室に残って学者の道に進まないかとさそわれる。でも賢治は、それを断る。そして、ちょうど花巻にきたばかりの農学校の先生になる。二十五さいの冬だった。

「いねの心が分かる人間になれ。」

それが生徒たちへの口ぐせだった。

②また、こんな言葉を覚えている教え子もいる。

「農学校の『農』という字を、じっと見つめてみてください。『農』の字の上半分の『曲』は、大工さんの使う曲尺のことです。そして下の『辰』は、時という意味です。年とか季節という意味もあります。」  
曲尺というのは、直角に曲がったものさしのことだ。それを使うと、一度に二つの方向の寸法が測れる。だから賢治の言葉は、「その年の氣候の特徴を、いろいろな角度から見て、しっかりとつかむことが大切です。」という意味になる。

(1) 一線①「なんとかして・・・できないものか。」と考えた賢治は、最初に、何をしようと考えましたか。

(2) 農学校の先生になった賢治の、生徒たちへの口ぐせは何ですか。

(3) 一線②「農学校の『農』・・・意味もあります。」という言葉によって、賢治はどういうことを伝えようとしたのですか。



## 賢治の考えや生き方について考えましょう。

賢治が中学に入学した年も、自然災害のために農作物がとれず、農民たちは大変な苦しみを味わった。その次の年も、また洪水。

①「なんとかして農作物の被害を少なくし、人々が安心して田畑を耕せるようにはできないものか。」

賢治は必死で考えた。

「そのために一生をささげたい。それにはまず、最新の農業技術を学ぶことだ。」

そう思った賢治は、盛岡高等農林学校に入学する。成績は優秀。卒業のときに、教授から、研究室に残って学者の道に進まないかとさそわれる。でも賢治は、それを断る。そして、ちょうど花巻にきたばかりの農学校の先生になる。二十五さいの冬だった。

「いねの心が分かる人間になれ。」

それが生徒たちへの口ぐせだった。

②また、こんな言葉を覚えている教え子もいる。

「農学校の『農』という字を、じっと見つめてみてください。『農』の字の上半分の『曲』は、大工さんの使う曲尺のことです。そして下の『辰』は、時という意味です。年とか季節という意味もあります。」  
曲尺というのは、直角に曲がったものさしのことだ。それを使うと、一度に二つの方向の寸法が測れる。だから賢治の言葉は、「その年の気候の特徴を、いろいろな角度から見て、しっかりとつかむことが大切です。」という意味になる。

(1) ー線①「なんとかして・・・できないものか。」と考えた賢治は、最初に、何をしようと考えましたか。

### 最新の農業ぐ術を学ぶこと

(2) 農学校の先生になった賢治の、生徒たちへの口ぐせは何ですか。

### 「いねの心が分かる人間になれ。」

(3) ー線②「農学校の『農』・・・意味もあります。」という言葉によって、賢治はどういうことを伝えようとしたのですか。

その年の気候の特徴を、いろいろな角度から見て、しっかりとつかむ ことが大切だということ。





また賢治は、春、生徒たちと田植えをしたとき、田んぼの真ん中に、ひまわりの種を一つぶ植えたこともあった。すると、真夏、辺り一面ただ平凡な緑の中に、それが見事に花を開く。

「田んぼが、詩に書かれた田んぼのように、かがやいて見えましたよ。」

と昔の教え子たちが言う。

苦しい農作業の中に、楽しさを見つける。工夫することに、喜びを見つめる。そして、未来に希望を持つ。それが、先生としての賢治の理想だった

暴れる自然に勝つためには、みんなで力を合わせなければならない。力を合わせるには、たがいにやさしい心が通い合っていないければならない。そのやさしさを人々に育ててもらうために、賢治は、たくさんの詩や童話を書いた。「風の又三郎」またさぶろう「グスコープドリの伝記」「セロ弾きのゴーシュ」、そして「やまなし」。

賢治の書いた物語の舞台は、イートハーヴという一つの同じ場所であることが多い。イートハーヴというのは想像で作った地名だけれど、「イワート」というのとよく似ている。

(4) ー線①「先生としての賢治の理想」とは、どんなことですか。三つ書きましましょう。

(5) 賢治は、たくさんの詩や童話を書くことと、農業を、どのように結び付けて考えたのですか。

・暴れる自然に勝つためには、

←

・力を合わせるには、

←

・詩や童話を読むことで、

(6) 賢治の書いた物語の多くは、何という場所が舞台になっていますか。



また賢治は、春、生徒たちと田植えをしたとき、田んぼの真ん中に、ひまわりの種を一つぶ植えたこともあった。すると、真夏、辺り一面ただ平凡な緑の中に、それが見事に花を開く。

「田んぼが、詩に書かれた田んぼのように、かがやいて見えましたよ。」

と昔の教え子たちが言う。

苦しい農作業の中に、楽しさを見つける。工夫することに、喜びを見つめる。そして、未来に希望を持つ。それが、先生としての賢治の理想だった

暴れる自然に勝つためには、みんなで力を合わせなければならない。力を合わせるには、たがいにやさしい心が通い合っていないなければならない。そのやさしさを人々に育ててもらうために、賢治は、たくさんの詩や童話を書いた。「風の又三郎」またさぶろう「グスコープドリの伝記」「セロ弾きのゴーシュ」、そして「やまなし」。

賢治の書いた物語の舞台は、イートハーヴという一つの同じ場所であることが多い。イートハーヴというのは想像で作った地名だけれど、「イワート」というのとよく似ている。

(4) ー線①「先生としての賢治の理想」とは、どんなことですか。三つ書きましよう。

苦しい農作業の中に、楽しさに見つけること。

工夫することに喜びを見つけること。

未来に希望をもつこと。

(5) 賢治は、たくさんの詩や童話を書くことと、農業を、どのように結び付けて考えたのですか。

・ 暴れる自然に勝つためには、みんなで力を合わせなければならない。

・ 力を合わせるには、たがいにやさしい心が通い合っていないければ

← ← ならない。

・ 詩や童話を読むことで、人々にやさしさを育ててもらおう。

(6) 賢治の書いた物語の多くは、何という場所が舞台ぶになっていますか。

イートハーヴ



賢治がイートハーヴの物語を通して追い求めた理想。それは、人間が人間らしい生き方ができる社会だ。それだけでなく、人間も動物も植物も、たがいに心が通い合うような世界が、賢治の夢だった。一本の木にも、身を切られるときの痛みとか、日なたぼっここのこちよさとか、いかりとか、思い出とか、そういうものがきつとあるにちがいない。賢治は、その木の心を自分のことのように思つて、物語を書いた。

けれども、時代は、賢治の理想とはちがう方向に進んでいた。さまざまな機械の自動化が始まり、鉄道や通信が発達した。なんでも早く、合理的にできることがよいと思われるようになった。そんな世の中に、賢治の理想は受け入れられなかった。

初めのころ、賢治は、自分が書いた童話や詩の原稿をいくつかの出版社に持ちこんだ。でも、どの出版社でも断られた。しかたなく、賢治は、自分で二冊の本を出す。童話集「注文の多い料理店」、詩集「春と修羅<sup>しゅら</sup>」。でも、これもほとんど売れなかった。それどころか、ひどい批評の言葉が返ってくる。自分の作品が理解されないことに、賢治はきずついた。次に出すつもりで準備を整えていた詩集も、出すのをやめた。

(7) 「線「賢治がイートハーヴの物語を通して追い求めた理想」とは、どんなことですか。

(8) 賢治が受け入れられなかったのは、どんな世の中だったからですか。次から選びましょう。

- ア 人間が自然を守ることを第一に考えている世の中。
- イ なんでも合理的にできることがよいと思う世の中。
- ウ 行きすぎた機械化、自動化を反省している世の中。

( )



賢治がイートハーヴの物語を通して追い求めた理想。それは、人間が人間らしい生き方ができる社会だ。それだけでなく、人間も動物も植物も、たがいに心が通い合うような世界が、賢治の夢だった。一本の木にも、身を切られるときの痛みとか、日なたぼっここのこちよさとか、いかりとか、思い出とか、そういうものがきつとあるにちがいない。賢治は、その木の心を自分のことのように思っ、物語を書いた。

けれども、時代は、賢治の理想とはちがう方向に進んでいた。さまざまな機械の自動化が始まり、鉄道や通信が発達した。なんでも早く、合理的にできることがよいと思われるようになった。そんな世の中に、賢治の理想は受け入れられなかった。

初めのころ、賢治は、自分が書いた童話や詩の原稿をいくつかの出版社に持ちこんだ。でも、どの出版社でも断られた。しかたなく、賢治は、自分で二冊の本を出す。童話集「注文の多い料理店」、詩集「春と修羅<sup>しゅら</sup>」。でも、これもほとんど売れなかった。それどころか、ひどい批評の言葉が返ってくる。自分の作品が理解されないことに、賢治はきずついた。次に出すつもりで準備を整えていた詩集も、出すのをやめた。

(7) ー線「賢治がイートハーヴの物語を通して追い求めた理想」とは、どんなことですか。

人間が人間らしい生き方ができる社会であり、それだけでなく、人間も動物も植物も、たがいに心が通い合うような世界。

(8) 賢治が受け入れられなかったのは、どんな世の中だったからですか。次から選びましょう。

- ア 人間が自然を守ることを第一に考えている世の中。
- イ なんでも合理的にできることがよいと思う世の中。
- ウ 行きすぎた機械化、自動化を反省している世の中。

(イ)



農業に対する考え方にも、変化がおこっていた。

「一度に大勢の生徒を相手に理想を語ってもだめだ。理想と現実の農業はちがう。実際に自分も農民になって、自分で耕しながら人と話さなければ。」

そう思った賢治は、三十さいのときに農学校をやめ、「羅須地人協会」を作る。農家の若者たちを集め、自分も耕しながら勉強する。それが賢治の目的だった。

協会に集まった農村の青年は三十人ほど。そこで賢治は、農業技術を教え、土とあせの中から新しい芸術を生み出さなければならぬことを語った。農民の劇団を作ったり、みんなで歌やおどりを楽しんだ。毎日、北上川沿いのあれ地を耕し、真っ黒に日焼けし、土のおいをおんぷんさせる賢治。でもそれは、長くは続かなかった。病気のために、ねこんでしまったのだ。

(9) — 線 「一度に大勢の生徒を相手に理想を語ってもだめだ。理想と現実の農業はちがう。」と考えた賢治は、どんなことをしましたか。

三十歳の時に ( )

( )、( )

( )

( )とい

う協会を作った。そこで、

( )

( )を教え、

( )

( )を語った。

(10) 「羅須地人協会」では、具体的にどんな活動をしていましたか。



農業に対する考え方にも、変化がおこっていた。

「一度に大勢の生徒を相手に理想を語ってもだめだ。理想と現実の農業はちがう。実際に自分も農民になって、自分で耕しながら人と話さなければ。」

そう思った賢治は、三十さいのときに農学校をやめ、「羅須地人協会」を作る。農家の若者たちを集め、自分も耕しながら勉強する。それが賢治の目的だった。

協会に集まった農村の青年は三十人ほど。そこで賢治は、農業技術を教え、土とあせの中から新しい芸術を生み出さなければならぬことを語った。農民の劇団を作ったり、みんなで歌やおどりを楽しんだ。毎日、北上川沿いのあれ地を耕し、真っ黒に日焼けし、土のおいぶんぶんさせる賢治。でもそれは、長くは続かなかった。病気のために、ねこんでしまったのだ。

(9) — 線 「一度に大勢の生徒を相手に理想を語ってもだめだ。理想と現実の農業はちがう。」と考えた賢治は、どんなことをしましたか。

三十歳の時に（農学校をやめ）、（農家の若者たちを集め、自分も耕しながら勉強すること）目的に、（羅須地人協会）という協会を作った。そこで、（農学技術）を教え、（土とあせの中から新しい芸術を生み出さなければならぬこと）を語った。

(10) 「羅須地人協会」では、具体的にどんな活動をしていましたか。

・ 農村の青年に農業技術を教え、農民の劇団を作ったり、みんなで歌やおどりを楽しんだりした。

・ 賢治自身も、北上川沿いのあれ地を耕し、真っ黒に日焼けして働いた。



羅須地人協会は、二年ほどで閉じなければならなくなった。でも次の年、病気が少しよくなると、起き出して村々を歩き回った。「あなただのこの田んぼは、こういう特徴があるから、今年は、こういう肥料をこのくらいやりなさい。」と、一人一人に教えてあげるボランティアだ。同時に、賢治は、石灰肥料会社かいの共同経営者になって、セールスに歩き回る。石灰肥料会社は土地改良に役立つものだったので、それを広めることが農民のためになると考えたのだ。岩手県内だけでなく、東北一帯を、毎日毎日飛び回った。

そのため、またまた体をこわしてしまふ。三五さい。ついに旅先で発熱。起き上がることができなくなった。もうだめかもしれないと思って、遺書を書くほどの衰弱ぶりだった。どうにかやつと自分をはげまして、花巻に帰ったけれど、それっきりとこをはなれることができなくなつた。

そのまま二年間、賢治は病気とたたかうが、体はますます弱つていった。そして、一九三三年（昭和八年）九月二十一日が来る。

前の晩、急性肺炎を起こした賢治は、呼吸ができないほど苦しんでいた。なのに、夜七時ごろ、来客があつた。見知らぬ人だったけれど、「肥料のことを教えてもらいたいことがある。」と言う。すると賢治は、着物を着がえて出ていき、一時間以上も、ていねいに教えてあげた。

(11) 羅須地人協会を閉じたあと、病気が少しよくなつて、賢治は何を始めましたか。二つ書きましよう。

(12) 「ボランティア」や石灰肥料の「セールス」、死の前日来た客への対応に、賢治のどんな思いがあつたのでしょうか。次から選びましよう。

- ア 農民のために、理想の農業を広めたいという熱い思い。
- イ 自分の作品を理解しない世の中を見返したいという思い。
- ウ 文学の代わりに、農業で人々にみとめられたいという思い。

（ ）



羅須地人協会は、二年ほどで閉じなければならなくなった。でも次の年、病気が少しよくなると、起き出して村々を歩き回った。「あなただのこの田んぼは、こういう特徴があるから、今年は、こういう肥料をこのくらいやりなさい。」と、一人一人に教えてあげるボランティアだ。同時に、賢治は、石灰肥料会社かいの共同経営者になって、セールスに歩き回る。石灰肥料会社は土地改良に役立つものだったので、それを広めることが農民のためになると考えたのだ。岩手県内だけでなく、東北一帯を、毎日毎日飛び回った。

そのため、またまた体をこわしてしまふ。三五さい。ついに旅先で発熱。起き上がることができなくなった。もうだめかもしれないと思って、遺書を書くほどの衰弱ぶりだった。どうにかやつと自分をはげまして、花巻に帰ったけれど、それっきりとこをはなれることができなくなつた。

そのまま二年間、賢治は病気とたたかうが、体はますます弱つていった。そして、一九三三年（昭和八年）九月二十一日が来る。

前の晩、急性肺炎を起こした賢治は、呼吸ができないほど苦しんでいた。なのに、夜七時ごろ、来客があつた。見知らぬ人だったけれど、「肥料のことを教えてもらいたいことがある。」と言う。すると賢治は、着物を着がえて出ていき、一時間以上も、ていねいに教えてあげた。

(11) 羅須地人協会を閉じたあと、病気が少しよくなって、賢治は何を始めましたか。二つ書きましよう。

- ・ 村々を回り、農業について教えるボランティア。
- ・ 土地改良に役立つ石灰肥料のセールス。

(12) 「ボランティア」や石灰肥料の「セールス」、死の前日来た客への対応に、賢治のどんな思いがあつたのでしょうか。次から選びましよう。

- ア 農民のために、理想の農業を広めたいという熱い思い。
- イ 自分の作品を理解しない世の中を見返したいという思い。
- ウ 文学の代わりに、農業で人々にみとめられたいという思い。

(ア)





## 宿題

次回の授業までにやる勉強です。

### 1. 漢字

新しい漢字の復習をしましょう。

### 2. 音読

「イートハーヴの夢」を読みましょう。  
宮澤賢治の考えを読み取ろう。

### 3. 言葉の学習

① 次の言葉を使って、文を書きましょう。

ア くさる

イ 批評

② 正しい使い方はどちらですか。

ア 宝物がぬすまれないように目をみはる。

イ すばらしい新記録に目をみはる。



## お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
  2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って  
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 [Akiko@JPNCClass.com](mailto:Akiko@JPNCClass.com) です。
  - ❖ このビデオのスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から  
ダウンロードや印刷ができます。



**JPN Class**

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

六年生

年間学習表



8月	7月	6月	5月	4月		
		<p>討論会をしよう 討論会の流れと進 め方を学習しよう。</p>			<p>1年間の学習を通し て先生の話を聞き、 学習を進めよう。</p>	話す／聞く
	<p>本は友達 自分の好きな本を 紹介しよう。</p>	<p>ガイドブックを作る う 読み手に必要な情 報、自分が伝えた いことをふまえて、 文章を書こう。</p>	<p>生き物はつながりの 中に 文章全体を短くま とめよう。(要約 しよう。)</p>	<p>カレライス 主人公と似た経験 について書こう。</p>	<p>新聞記事 記事の要約をし、 記事に対する自分 の意見を書こう。</p>	書く
<p>船りんご 詩の言葉に現れた 筆者の気持ちを読 み取ろう。</p>	<p>森へ 情景を想像しながら 読んで、森のイ メージを豊かに伝 える効果的な表現 を味わおう。</p>	<p>短歌・俳句の世界 短歌や俳句を讀ん で、リズムや言葉 の美しさを感じよ う。</p>	<p>生き物はつながりの 中に 筆者が文章を通し て一番言いたいこ とは何か考えよう。</p>	<p>カレライス 主人公の気持ちを 考え、自分と重ね 合わせて読んでみ よう。</p>	<p>新聞記事 記事の内容を読み 取るう。</p>	読む
<p>同じ訓を持つ漢字 同じ訓を持つ漢字 それぞれの意味と 使い方を知ろう。</p>			<p>暮らしの中の言葉 ことわざや漢字四 字の言葉の、意味 や使い方を理解し よう。</p>	<p>漢字の形と音・意味 漢字の音を表す部 分、意味を表す部 分を知り、漢字の 組み立てを理解し よう。</p>	言葉	

1月	12月	11月	10月	9月	
	自分の考えを発信しよう 自分の考えをインターネットを使って、友だちに発信しよう。	自分の考えを発信しよう 「平和」に関する資料を通じて、自分の考えを書こう。	イートハーヴの夢 宮沢賢治の考えについて分かったこと、思ったことを書こう。	みんなで生きる町 調べたことや考えたことを分かりやすく伝えよう。	話す／聞く
今、わたしは、ぼくは 自分の思いが伝わるような表現を身に付けよう。	今、わたしは、ぼくは 構成を工夫して、意図が明確に伝わる方法を考えよう。	自分の考えを発信しよう 「平和」に関する資料を通じて、自分の考えを書こう。	イートハーヴの夢 宮沢賢治の考えについて分かったこと、思ったことを書こう。	みんなで生きる町 調べたことをもとに、提案書を作ろう。	書く
感動を言葉に見たり感じたりしたことをもとに、心のつぶやきを言葉にしよう。		平和のとりでを築く 文の書き方の特徴に気をつけて、筆者の考えを読み取ろう。	イートハーヴの夢 宮沢賢治の考え方や生き方を読み取ろう。	みんなで生きる町 だれもが暮らしやすくするにはどうしたらいいか考えよう。	読む
	インターネットと学習 インターネットを学習に役立てるために、注意することを確かめよう。	覚えておきたい言葉 教科や社会生活の中で使われる言葉の意味を理解しよう。	熟語の成り立ち 漢字二字・三字・四字以上の熟語について理解を深めよう。	日本で使う文字 平仮名と片仮名の由来を知ろう。ローマ字とのかかわりを知ろう。	言葉

	3月	2月	
			話す／聞く
	<p>今、君たちに伝えたいこと            筆者が伝えたいことをまとめ、俺に対する自分の考えを書こう。</p> <p>生きる            「生きる」の形をまねて、詩を創ってみよう。</p>	<p>わたしたちの言葉            いろいろなあいさつについてまとめてみよう。</p>	書く
	<p>今、君たちに伝えたいこと            筆者が経験をとおして子どもたちにつたえたいメッセージを読み取ろう。</p> <p>生きる            それぞれの連に注意しながら、作者の考える「生きる」を読み取ろう。</p>	<p>海の命            周りの人々とのかわりの中で成長していく主人公の姿を読み取ろう。登場人物の言動から生き方や考え方を読み取ろう。</p> <p>言葉の橋            詩を味わい、心を伝える言葉の働きについて筆者の考えを読みとろう。</p>	読む
<p>六年生の漢字            六年生で習った漢字の復習をしよう。</p>		<p>漢字クイズ            小学校で習った漢字を、正しく理解しているか確かめよう。</p>	言葉